

氏 名 初田 章子
学位の種類 博士(音楽)
学位記番号 甲第32号
学位授与年月日 令和6年3月25日
論文題目 フィリップ・ゴッパールにおける「しなやかさ (souplesse)」の技法
——教則本と卒業試験課題の変遷からみた一考察——

学位論文等審査委員

<リサイタル審査>

主 査	教 授	大嶋 義実
副 査	教 授	太田 峰夫
副 査	教 授	川端 美都子

<論文審査>

主 査	教 授	大嶋 義実
副 査	教 授	太田 峰夫
副 査	教 授	川端 美都子

論文要旨

本論文は、傑出したフルート奏者で指揮者・作曲家でもあったフィリップ・ゴーベールのフルート演奏法における「しなやかさ (souplesse)」の技法について考察するものである。

彼が出版に関わった2種のフルート教則本と彼のフルート作品を、同時期のパリ音楽院フルート科卒業試験課題の変遷の中で概観し、その歴史的な位置付けを行うとともに、彼による「しなやかさ」の技法を示すことを、本論文では試みた。

本論は三つの章で構成される。

まず第一章では、ゴーベールが生涯にわたり多面的な活動を行っていたことを俯瞰した。彼は、フルートにおける近代フランス楽派の父とみなされているポール・タファネルに師事し、その教えを誰よりも近くで受け継いだ。作曲家としてはローマ大賞2位を受賞し、指揮活動とともに音楽全体に対する高い視座を持って戦間期フランスの音楽界を支えた。

第二章では、2種の教則本からゴーベールの教えを取り出して考察した。はじめに、師タファネルが最新のベーム式フルートの更なる開発に関わり、フルートの機能とレパートリーを拡大したこと、フルート教育においては古典の作品、及びヴァイオリンやピアノの作品を教材として導入し、演奏法として音の吹き分けを指導していたことを確認した。

その上で、ゴーベールによるフルート教育と、師の教えの継承と発展について考察した。彼は師よりも一歩踏みこんだ言葉で演奏法の助言を記し、身体と呼吸の扱いについて「しなやかさ」を重視し、それらが実際に習得できるための練習曲を作曲して、2種の教則本にそれぞれ掲載した。また、フルート学習者に自身の音と状態を聴くことの大切さを説いた。これらのことから、彼にとって「しなやかさ」がきわめて重要であったことを論じた。

第三章では作曲家ゴーベールにおけるフルートの「しなやかさ」について考察した。まず19世紀後半のパリのサロンにおけるピアノ音楽について概観し、20世紀初頭のパリのピアノ音楽教育において身体と音楽表現両面での「しなやかさ」を求める傾向があったことを確認した。その上で、フルート作品に対する「しなやかさ」がどのように現れて行ったのかを、パリ音楽院のフルート科卒業試験課題の変遷を通して考察した。結果として1900年以降の卒業試験課題曲には、それ以前と比べて作品の室内楽への接近傾向が見られた。

それらを踏まえ、ゴーベールの「しなやかさ」がどのように彼のフルート作品にあらわれていったのかを示した。またその作品において、ピアノ譜がフルートの弱音の音質を活かすためにどのように工夫されているかを指摘した。最後に、ゴーベールが後期フルート作品において身体と呼吸の深い「しなやかさ」を前提とした作品を作曲していたことを確認した。

以上から、ゴーベールがタファネルを通して最新の楽器開発の恩恵を受け、超絶技巧と幅広い音楽観を受け継いだこと、身体と呼吸を扱う「しなやかさ」を技法として重視し、それらを習得するための自作の練習曲を教則本に掲載し、フルート作品の中でも活かしていったことが明らかになった。新しい機構の楽器と表現のために、奏者の側にもこれまでにない身体と呼吸の扱いが必要になったのである。

ゴーベールの述べる「しなやかさ (souplesse)」は、柔軟性、適応力、に加えて関節を硬直させない、といった意味合いを含む。これらを通した身体と呼吸の扱いは、豊かな音色からごく僅かな弱音までを

操り、指や舌の敏捷さとその持続を導く。「しなやかさ」の度合は楽器と身体の扱いの達人度を表すことにもつながり、やがてはパリ音楽院のフルート教育、フランスにおけるフルート音楽において重要な要素となって継承されていくのである。

審査結果の要旨

＜リサイタル審査＞

当リサイタルは本学講堂において、ピアノに鈴木華重子氏を迎え、2023年7月8日15時より行われた。

プログラムは申請者の研究テーマである19世紀末から20世紀前半にかけてフランスで活躍したフルート奏者・作曲家・指揮者であるフィリップ・ゴーベール Philippe Gaubert (1879-1941) の楽曲を核に、彼を取り巻く音楽家たちの作品が演奏された。

プログラム

1. ポール・タファネル(1844~1908) :
歌劇《ミニヨン》の主題によるグランド・ファンタジー(1874)
Paul Taffanel: Grande Fantaisie sur Mignon – Opéra comique d'Ambroise Thomas
2. フィリップ・ゴーベール(1879~1941) :
ノクチュルヌとアレグロ・スケルツァンド(1906)
Philippe Gaubert: Nocturne et Allegro Scherzando
3. フェルッチョ・ブゾーニ (1866~1924) : (ピアノ版クルト・ヴァイル編曲)
ディヴェルティメント(1920)
Ferruccio Busoni: Divertimento
4. フィリップ・ゴーベール :
フルート・ソナタ第3番(1933)
Philippe Gaubert: 3ème Sonate pour Flûte et Piano
第一楽章 Allegretto
第二楽章 Intermède Pastoral Très modéré
第三楽章 Final Joyeux - Allegretto
5. ジャニーヌ・リュエフ (1922~1999):
ディプティック(1954)
Jeanine Rueff: Diptyque
6. フィリップ・ゴーベール :
フルート(あるいはヴァイオリン)とピアノのためのソナチネ
——ほとんどファンタジアのように(1937)
Philippe Gaubert: Sonatine – Quasi Fantasia pour Flûte (ou Violon) et Piano
第一楽章 Allegretto, très allant - avec simplicité et fraîcheur
第二楽章 Hommage à Schumann

1 曲目はゴッベールの師でもあるポール・タファネル Paul Taffanel (1844-1908) の《歌劇「ミニヨン」の主題によるグランド・ファンタジー》(1874)

冒頭、絶対的な音量について多少物足りなさを感じたものの、線が細いながらも申請者の持つ伸びやかな音色と柔軟性のある表現力は、一瞬にしてその不満を忘れさせ、結果的にオペラの舞台をほうふつとさせる演奏となっていた。加えて、フルートならではの技巧を聞かせるパッセージにおいては技術的難所を難所と感じさせない余裕が見られ、これまでの申請者のキャリアを物語るものを感じさせた。

2 曲目はゴッベール自身の《ノクチュルとアレグロ・スケルツァンド》(1906)

小品ながら奏者に幅広い表現を求める本作品を、申請者は各フレーズ、モチーフ毎に的確な音色を吹き分けるとともに、前半においては濃厚なロマンチズムを漂わせ、後半では軽やかなリズムを弾力感のある音色で生き活きと表現することに成功していた。

3 曲目はフェルッチョ・ブゾーニ Ferruccio Busoni (1866-1924) の《ディヴェルッティメント(ゴッベールに捧げる)》(1920)

新古典主義を主張した作曲家ならではの構成感のしっかりした作品を、申請者は各モチーフ、テーマはもとよりフレーズ感、ダイナミックの変化までも、あたかも音の部品を立体的に組み上げるかのように開示してみせ、的確に楽曲の全体像を描き切っていた。オリジナルはフルートとオーケストラのために書かれたもので、フルートとピアノ版(1922)はブゾーニの弟子クルト・ワイルによって編曲されたもの。ゴッベールとワイルに接点があったことはあまり知られておらず、その響きを興味深く聴くことができた。

休憩を挟み 4 曲目は再びゴッベールの作品《フルート・ソナタ第 3 番(オペラ座、コンセル・ラムルー首席奏者ジャン・ブルズに捧げる)》(1933)

前半でも十分に安定感のある演奏ではあったが、後半に入るとさらに解放感を覚えさせる音楽が聴けた。それは申請者が解説に書く、この作品自体のもつ「肩の力の抜けた自然な日常のやり取りのように、時に無造作とも言える楽曲の在り方や私的な楽しみ」をそのまま音にしたような演奏であり、安心してゴッベールの音世界に身を任せることができた。

特筆すべきは第 2 楽章においてフルートのアルペジオによって表現される和声の色彩感だった。細やかに変化する音色のグラデーションに、あたかも印象派の絵画を見るような錯覚を覚えさせられたのは今リサイタル最大の収穫といえよう。

5 曲目はジャンヌ・リュエフ Jeanine Rueff (1922 - 1999) の《ディプティック(パリ音楽院教授ガストン・クリューネルに捧げる)》(1954)

おそらくジョリベの《リノスの歌》に影響を受けたであろう神秘的な響きを持つ作品を、申請者は粒立ちの良い発音を駆使し、聴き手を異世界へと誘うことに成功していた。さらに力強さや迫力のようなものを表現できれば、この楽曲に潜む獣性や呪術的側面を、よりの確に表現できたかもしれない。とはいえ奏者のソルフェージュ能力を試すかのような難曲を、ピアノと共に高い次元の完

成度で吹き切ったことは十分に評価に値しよう。

6 曲目、リサイタル最後に演奏されたのはゴーベールの《フルート（あるいはヴァイオリン）とピアノのためのソナチネ—ほとんどファンタジアのように（わが友ジョルジュ・バレールに捧げる）》（1937）

申請者のゴーベールへの傾倒が良くわかる非常に丁寧であり、また楽曲に対する共感のにじみ出る演奏となっていた。

作曲者自身の指示によって「素朴さ」と「くつろぎ」が求められる第 1 楽章は申請者の最も良い面が表出されたかのような。清潔感と素直さの感じられる演奏となっていた。

第 2 楽章は「シューマンへのオマージュ」とあるようにシューマン的な和声に乗りながら、どこかおしゃれな雰囲気を持つメロディがフルートにより奏される。申請者のいうゴーベールの持つおちゃめな側面が垣間見えるチャーミングな演奏であった。

この後アンコールとしてゴーベールの《ファンタジー》（1912）が演奏された。

申請者にとっては長年取り組んできた手中の楽曲のようで、手慣れた表現が本リサイタルの掉尾を飾るに相応しくゴーベールの世界観を見事に描ききっていた。

全体を通し、楽器からさらによく響く音を自然に引き出せれば、よりドラマチックな表現も可能かと思わせる部分もあったものの、決して表現の幅を狭めることなく、どの楽曲も破綻を感じさせないきわめて安定した演奏であった。その完成度の高さとも相まって博士学位に相応しいリサイタルであったことを認め全審査委員一致して合格と判断した。

<論文審査>

審査の方法

審査の日時 2024年2月8日10時30分～13時00分

審査の場所 専門講義室3

審査は公開形式で行われた。最初に受験者が博士論文の内容について約60分のプレゼンテーションを行い、約30分間の質疑応答が続いた。

その後、非公開での口述試験を約50分間行った。そして受験者退席の上、審査員が3名で意見交換を行い、合否を判定した。

審査の内容

プレゼンテーションは内容がよく整理されており、説明も聞き取りやすかった。質疑に対する受け答えもしっかりとしており、研究者としての経験の蓄積をうかがわせた。

博士論文において受験者はフルート奏者・作曲家・指揮者フィリップ・ゴーベール(1879-1941)がかかわった2冊のフルート教則本と彼の作品を取り上げ、パリ音楽院フルート科教授だったこの音楽家がフルート演奏において身体上、および表現上の「しなやかさ *souplesse*」を重視したことを明らかにした。そしてその背景にフランスにおけるバーム式フルートの普及と楽器改良の歴史、師匠タファネルからの影響、20世紀初頭のフランスのフルート音楽における室内楽への関心の高まりがあったことを論じた。

受験者はゴーベールの演奏観を論じるにあたり、彼の直接の師匠であるポール・タファネルの業績までさかのぼり、ゴーベールが自分の師匠から何を引き継ぎ、発展させたのかを整理した。これにより、彼らがバーム式フルートの普及を背景に、フランスにおいて新しいフルート演奏のメソッドを確立していったことが明らかになった。ゴーベール自身の文章に頻出する「しなやかさ」というキーワードに着目することで、彼が脱力やメッサ・ディ・ヴォーチェ、多様なアーティキュレーションの使い分けを重視していたことを浮かび上がらせた点は非常に独創的であり、本論文はフルートの演奏史研究としても、有意義な研究成果とすることができる。

もちろん、問題点もないわけではない。質疑応答、および口述試験の席で指摘されたように、たとえば、ゴーベールの「しなやかさ」の概念が同時代やそれ以前の時代のフルート演奏の実践とどう関係していたのか、当時の状況をさらに掘り下げられれば、さらなる議論の展開も可能だったかもしれない。また、「しなやかさ」の概念それ自体についても、身体の「しなやかさ」と表現上の「しなやかさ」が彼の中でどう繋ぎ合わされていたのか、文献をさらに緻密に読むことで、論旨はより一層明快なものになったかもしれない。また、予備論文と比べれば格段に少なくなったとはいえ、いくつかの体裁上の不備や日本語表現の不備も見られたのも事実である。

しかしながら議論のまとまりと独創性、情報量、楽器や演奏法についての行き届いた説明は、現時点においても十分評価できる水準に達しており、11月の予備論文と比べても大きな前進を示していることを確認できた。

以上をふまえ、合否判定を行なった。本論文がフルート音楽の研究として、学術的に十分意義深いものになっており、内容においても独創的な議論が破綻なく、論理的に展開されていることについて、審査員の意見が一致したため、博士論文審査は合格とした。